

推薦書類の具体的留意点

調書は、被推薦者を審査するための基本資料である。したがって、以下に留意の上、必要事項を簡潔明瞭かつ的確に所定欄に記載すること。

(留意事項)

昨年度以前に推薦した者をあらためて推薦する場合、作成する推薦調書の記載内容や添付写真を見直す等、過去に提出した推薦調書等と同一の内容としないこと。

なお、令和8年度より、これまでの第17部門及び第18部門を統合したことにより、第17部門以降の部門番号や職種名が変更しているため、推薦調書を提出する際には、必ず（実施要領 別表）の職業部門、職業分類及び職種（例示）を確認すること。

【調書1】

1. 「職業部門」欄

被推薦者が従事する職業の職種が属する本要領の別表に定める職業部門番号をプルダウンにて選択すること。

2. 「職種名（1）及び（2）」欄

被推薦者が従事する職種を別表に例示している職種名を参考に、職種名（1）はプルダウンにて選択し、職種名（2）については記入すること。

なお、職種名や部門が不明な際は、以下を参考にされたい。

厚生労働省編職業分類（ハローワークインターネットサービス内）

https://www.hellowork.mhlw.go.jp/info/mhlw_job_dictionary.html

3. 「氏名」欄

住民票に記載されている字画で氏名を記入し、ふりがなを付けること。

(1) 名字と名前の間に全角スペースを1つ挿入すること。

(2) 変換できない文字又は特定のフォントでしか表示できない文字については、常用漢字等、一般的に使用されている文字に置き換え、「氏名・現就業先事業所名の外字」欄にその旨明記すること。また、その際は文字の画像データを調書とは別に添付すること。推薦者は、必ず調書を提出する前に住民票と照らし合わせ、被推薦者の氏名に旧字体が用いられていないか等、漢字の記載ミスがないかを確認すること。

(3) 雅号等での表彰は受け付けられないため記入しないこと。

良い例：厚労 太郎（名字と名前の間に全角スペースが1つ）

悪い例：厚労太郎（スペース無し）、厚労 太郎（スペースが2つ以上）、

厚労 太郎（スペースが半角）、厚 労 太 郎（名字と名前の間以外にもスペース）

氏名・現就業先事業所名の外字等記載例：「藤」は草冠が「十十」のように離れた字、「刃」は「刃」のように突き出る字、「◎」の字は「○」の字の偏が～～となった字（フォント「△△」で表示可能）等

4. 「生年月日」欄

住民票に記載されている生年月日を西暦で「19〇〇/〇〇/〇〇」の形式（数字は半角）で記入すること。

5. 「障害名・障害程度」および「障害の概要」欄（第21部門のみ）

被推薦者の障害者手帳に記載されている障害名及び障害程度をプルダウンにて選択すること。

【知的障害の場合の障害による程度の区分の入力方法】

- (1) 「療育手帳による程度の区分」の入力について、療育手帳等で次の記載が確認される場合は「A」を選択すること（㊤、A、A1、A2、A3、1度、2度、A重、A中、A2a、A2b、A最重度、A重度）。それ以外は「B」を選択すること。
- (2) 療育手帳による程度の区分が「B」のうち、地域障害者職業センターが行う重度知的障害者判定を受け、判定書が交付された者は、「重度知的障害者判定による重度判定」のうち当てはまる判定を選択すること。
- (3) 障害の概要について具体的に記入すること。

6. 「現住所」欄

郵便番号、現住所及び電話番号を略さずに、記入すること。住民票の住所と実際に居住している居所が異なる場合は、居所を記入すること。

7. 「就業先」欄

- (1) 「所属名」欄には、雇用されている場合にあっては雇用企業名を、自営している場合にあっては屋号等をそれぞれ省略等せず正確に（法人格を省略しないこと。「株式会社」を「(株)」などと表記しないこと）、下段には、工場名や支店名等（例：「〇〇工場」「〇〇支店」「〇〇営業所」など）があれば記載すること。
- (2) 「所在地」欄には、郵便番号、所在地及び電話番号を略さずに記入すること。
- (3) 令和8年11月1日以前に就業地が変更となることが推薦時に確定している場合は、カッコ書きで「(〇月〇日より変更予定)」などと明記すること。また、推薦後に就業地が変更となった場合は速やかに当係まで連絡すること。
- (4) 「企業全体の従業員数」欄における人数には、被推薦者も含めた人数を記載すること。

(例えば、就業者が被推薦者のみという場合は、0名とはならず、1名となる。)

8. 「職歴」欄

(1) 「職歴」欄

ア 就業先の名称、職務内容、地位及び役職等を順番に記入すること。

イ 団体歴、公職歴、家業手伝い、学生時代のアルバイト、推薦を受ける技能と関係の無い職種に従事していた期間は記入しないこと。

ウ いわゆる企業内学校において、推薦を受ける技能と直接関係がある職種の訓練を受けた期間は職歴となること。

エ 令和8年11月1日以前に就業地が変更となることが推薦時に確定している場合は、7. 就業先欄と同様にカッコ書きで「(〇月〇日より変更予定)」などと明記すること。

(2) 「在職期間」欄

その職の始期及び終期を記入すること。

なお、現職については、令和8年11月1日をもって終期とすること。

(3) 「在職年月数」欄

月単位で計算した在職年月数を記入すること。

9. 「表彰歴」欄

(1) 技能に関連して被推薦者本人が表彰を受けたもののみについて、表彰の概要及び取得年月を記入し、表彰を証する書面の写しを全て添付すること。

(2) 当省の指定した項目を変更する又は記入欄を増やす等、所定の様式を変更しないこと。

記入しきれない場合は、代表的なもののみ記載し、「詳細は別紙参照」などとして、別紙(任意様式)に記載すること。

(3) 技能に関連する表彰でない、「感謝状」「永年勤続表彰状」等は記入しないこと。

10. 「免許」欄

(1) 職業訓練指導員免許技能検定委員、特許・実用新案等を有する者については、当該免許等の概要及び取得年月を記入し、免許等を証する書面の写しを全て添付すること。

特許、実用新案等については、発明者名、所有権者名、内容、取得年月日を明らかにする資料(例:公開特許公報など)の写しを添付し、共同の場合は本人の担当分野を明らかにすること。

(2) 本表彰と関連がない、「普通自動車運転免許」等は記入しないこと。

11. 「大会入賞歴等」欄

(1) 高度熟練技能者、ものづくりマイスター、全技連マイスターに該当する場合は、認定された年度、業種、職種を記入し、認定を証する書面の写しを全て添付すること。

(2) 技能グランプリ入賞歴、技能五輪国際大会入賞歴、技能五輪全国大会入賞歴がある場合は、開催回、参加職種、順位の全てを記入し、入賞を証する書面の写しを全て添付すること。

なお、技能グランプリについては、第27回開催までは「第1位～第3位及び敢闘賞」、第28回開催以降現在までは「金賞～銅賞及び敢闘賞」としているのので、記載についてもプルダウンより選択すること。

プルダウン：「金賞（1位）、銀賞（2位）、銅賞（3位）、敢闘賞、出場、その他」

また、複数回にわたって技能グランプリに出場している場合には、最高順位の回を選択、記載することとし、その他の出場については、任意様式（表彰・資格・免許他）に記載のこと。

12. 「技能検定」欄

該当する場合は等級、技能士の名称（〇〇技能士）、取得年月を記入し、技能士証の写しを全て添付すること。なお、等級は一級、二級、単一等級のように漢数字で記入すること。

【調書2】

調書(2)の「卓越した技能の概要」欄について、1葉で記入することが困難な場合は、調書(3)を2葉まで追加して記載することとして差し支えない。

1. 「過去5年の推薦回数」欄

過去5年において卓越した技能者の表彰について被推薦者が推薦された年度を記入し、推薦回数の合計に誤りがないかを確認すること。

2. 「推薦順位等」欄

(1) 「選考対象者総数」欄（一般推薦の場合は不要）

ア 被推薦者の推薦に当たり、被推薦者とならなかった者も含め、実際に推薦者が選考の対象とした全ての員数を記入すること。

特に都道府県推薦においては、選考対象者総数については、明確に記載すること。

(例えば、50人を選考して、最終的に推薦者が10人となった場合は、「50」を記入する。)

イ 推薦の可能性のある潜在的人数を記載するなど、実際には選考していない者は計上しないこと。

(2) 「推薦総数」欄（1人のみ推薦の団体及び一般推薦の場合は不要）

選考対象者総数の内数であって被推薦者の全部門における総数を記入すること。

(3) 「推薦順位」欄（1人のみ推薦の団体及び一般推薦、第21部門の場合は不要）

被推薦者の全部門における推薦順位を記入すること。

3. 「推薦者及び推薦理由」欄

(1) 推薦者、推薦団体及び賛同者の住所、電話番号、名称（又は氏名）及びその推薦理由を記入すること。

(2) 推薦者については、都道府県推薦の場合は都道府県知事名、団体推薦の場合は団体の長の氏名とすること。

ただし、空席時等やむをえない場合は職務代行者であることを明記した上で、職務代行者名を記入すること。

(3) 都道府県知事推薦の順位が1位の者に関しては、他の候補者と比較して最上位とした理由についても併せて記入すること。

4. 「卓越した技能の概要」欄

技能者表彰審査委員が具体的に評価する欄として、その卓越性を的確に把握し、評価できるよう具体的かつ分かりやすく詳細に記載すること。

専門的・技術的分野に関する用語等の取扱いについては、P14に後述の「【専門用語集】」を参照すること。

加えて、第21部門の被推薦者については、具体的な障害の程度に触れながら、障害をどのように乗り越えて技能のレベルを高めてきたのか記入すること。障害を克服し、技能を発揮されている場合はその工夫を、その他、被推薦者の技能向上のために職場環境において行っている取組みがあれば併せて記入すること。

(1)「技能の概要」欄

ア 関連する他の資料(別紙1 7.その他の資料及び、別紙2 9.その他の資料)に合わせて、被推薦者の従事する職種、技能の水準、範囲、特徴又は他の技能者との比較等の観点から卓越した技能を有するものであることが判定できるよう、特に技能の質的な面を中心に具体的に記入すること。

イ 記述に当たっては、技能面においてどの点がどのように優れているのか、エビデンス(数値等)、明確性(改善実績における本人の技能の関わりの明示等)に心がけること。

なお、被推薦者の功績・経歴が中心となっているケースが見られるので注意すること。

(例)「短時間で加工できる」

「通常3時間かかる加工を1時間でできる」等の表現とする。

(例)「精度が向上した」

「標準公差 $\pm 0\mu\text{m}$ が $\pm \Delta\mu\text{m}$ に向上した」等の表現とする。

(2)「功績・貢献の概要(社会的貢献活動を含む)」欄

関連する他の資料に合わせて、その者が当該技能をもって製作又は建造等をしたもので、当該被推薦者の技能の程度の判断に資するとともに、企業、産業界及び社会に対する貢献度等において高く評価されているような事績を具体的に記入すること。

また、天災等による復興活動や福祉活動など、社会的貢献活動に積極的に取り組んでいる場合には、その点についても具体的な事例を踏まえて記載すること。

(3)「後進指導育成の概要」欄

被推薦者が後進の指導・育成に当たった方法、対象及び範囲等を具体的に記入すること。

(4)「現役性」欄

被推薦者が現役の技能者であるかを確認するため、その者の有する技能に関連した職種における1日平均の就業時間又はその者の有する技能に関連した職種に専ら就業しているか否か(現場での直接指導等)を具体的に記入すること。

【写真】

写真は、被推薦者の製作した製品や作業風景を視覚的に確認し、調書を補完し、審査の一助として被推薦者の能力や技術を明確に審査員が判断できるよう添付するものである。このため、被推薦者の技能レベルや、実際の作業風景・作品等が分かる大きくて鮮明なものを可能な限り複数枚添付する。

1. 添付する写真の種類

写真は次に記載する(1)から(4)までの内容をそれぞれ1枚以上添付すること。

全ての写真が「作業の状況が手元のみの写真」、「複数人の写真」、「後ろ姿の写真」など本人と確認しづらい写真とならないように留意し、複数人が写っている場合は、どれが本人か分かるようにすること。

(1) 作業風景

現役性の有無を確認するため、客観的に本人と分かる者が作業をしている直近1年以内（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）に撮影された写真。

(2) 作業工程

製作物（作品）ができるまでの大まかな過程や順番が分かる写真。

(3) 製作物（作品）

上記（1）で記した同期間における製作物（作品）の写真。ただし、製作期間が長く、同期間における作品・製品等が無い場合は最新のものが可とする。特に、商品として販売している場合は、現在も継続して販売しているものとする。

(4) 後進の指導育成

具体的にどのような指導を行ったかが分かる指導風景などの写真。

2. 写真に対する解説文章の記載について

作業風景や作品の写真において、被推薦者の卓越した技能がどのように発揮されているか簡潔明瞭に記載すること。

3. 技能や功績が確認できない写真

単なる集合写真等、被推薦者の持つ技能や功績が確認できない写真は添付しない。

また、表彰状やトロフィー資格証等は、根拠資料である“その他資料”として提出すること（調書の写真としては添付しないこと）。

【専門用語集】

専門的・技術的分野に関する用語名、ふりがな及び解説を付したものとし、解説が必要な用語が全提出書類中に1つも無い場合は提出不要とする。

記入例（都道府県・団体共通）※本記入例を参照の上、適切な様式にそれぞれ記入すること。

調書（１）都道府県、団体

（様式３の１、様式３の２）

令和8年11月1日 現在

都道府県番号	○	推薦都道府県名 推薦団体名	職業部門	第5部門	職種名（１）	職種名（２）	氏名・現就業先事業所名の 外字
		〇〇県 または 一般社団法人〇〇協会			電子応用機械器具 組立工	電子計算機組立工	例：「藤」は草冠が「十」のよう に離れた字、「刃」は「刃」の ように突き出る字、「◎」の字は 「○」の字の偏が～となった字 （フォント「△△」で表示可能） 等

推薦都道府県名欄、都道府県番号欄

プルダウンから推薦都道府県名を選択。
選択した都道府県に対応する番号が自動で都道府県番号欄に挿入される。

推薦団体名欄

職業部門番号欄、職種名（１）欄

「実施要領 別表」第１部門～第20部門を参考に職種をプルダウンにて選択し、記入。

**氏名・現就業先事業所名の
外字欄**

被推薦者の氏名・現就業先事業所名に変換できない文字または特定のフォントでしか表示できない文字がある場合、必ず記入。

氏名・ふりがな・性別欄

住民票に記載されている字面で氏名を記入し、ふりがなを付け、名字と名前の間に全角スペースを１つ挿入する。
性別欄は住民票に記載されている性別をプルダウンから選択する。

ふりがな	ぎのう しゅういち	性別	男	技能・技術が 分かるサイト等 （HPのURLを記載）	https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/izukaikatsu/meikou/index.html
氏名	技能 秀一				
生年月日	昭和31年12月10日	年齢	69	技能・技術が分かるサイト等欄 自身の技能や技術が分かるサイト（会社・団体HP等）があれば記入。	
現住所	〒 000-0000 都道府県 〇〇県 市区町村 〇〇市〇〇町〇丁目〇-〇 〇〇マンション〇〇号室 TEL 000-000-0000				
		生年月日・年齢欄 生年月日を入力すると和暦に変換される。 入力には西暦で「yyyy/mm/dd」（スラッシュ区切り）のように入力すること。「年齢」欄は生年月日を正しく入力すると自動で挿入される。			
		現住所欄 被推薦者の現住所および電話番号を記入する。都道府県はプルダウンにて選択。 住民票の住所と実際に居住している居所が異なる場合は、居所を記入。			

就業先欄

所属企業欄には、雇用企業名を、自営の場合は屋号等を省略せず正確に記入（法人格を省略しないこと）。拠点名があれば記入する。（例：「〇〇工場」「〇〇支店」「〇〇営業所」）
また「所在地」欄には、郵便番号、所在地及び電話番号を略さずに記入する。
推薦時に、令和8年11月1日以前に就業地の変更が確定している場合は「（〇月〇日より変更予定）」と記入。なお、推薦後に就業地が変更となった場合は速やかに連絡する。

職歴欄

就業先事業所の名称、職務内容、地位及び役職等を順番に記入すること。
団体歴、公職歴、家業手伝い、学生時代のアルバイト、推薦を受ける技能と関係の無い職種に従事していた期間は記入しない。ただし、いわゆる企業内学校において、推薦を受ける技能と直接関係がある職種の訓練を受けた期間は職歴とする。
現役の職歴は最後に「として現在に至る」と記入。

就業先 （都道府県）	〇〇県	企業全体の従業員数欄 被推薦者も含めた人数を半角数字で入力する。 就業者が被推薦者のみの場合は、1と入力する。 ※事業所の人数は記載しない。	職歴		在職期間（年月日）		在職年月数	
所属名	〇〇電機 株式会社 〇〇工場		△電機（株）第二製造部〇〇課に電機として就職	\$49.4.1	～	\$51.3.31	2年0月	
企業全体の従業員数	1,500人		〇電機（株）〇〇工場 第一製造部〇〇課電子機器組立工として就職	\$51.4.1	～	H3.3.15	14年11月	
所在地	〒 111-1111 都道府県 〇〇県 市区町村 〇〇市〇〇区〇〇町111-1	主任 〇〇長 〇長として現在に至る	H3.3.16	～	H11.9.30	8年6月		
				H11.10.1	～	H26.3.31	14年6月	
				H26.4.1	～	R8.11.1	2012年7月	
			在職期間（年月日）・在職年月数欄 在職期間の合計は、計算の上手入力のこと。		在職期間 計		51年6ヶ月	
					重複期間を除く在職期間 計		51年6ヶ月	

現職については、令和8年11月1日をもって終期とすること。

表彰歴、免許・資格、大会入賞歴・技能検定等写しの提出について

本欄書に記入した表彰や入賞歴などは、証する写しを全て、「その他資料」として提出すること。

※「様式4 写真」には記載しないこと。

その際には、表彰名や免許、資格名に①、②と番号を振り、根拠となる写しのファイルにも同様に①、②と番号を付すことで、

表彰歴	表彰の種類	表彰の概要	取得年月
	大臣表彰	①第〇回〇〇技能競技全国大会（〇〇の部）〇〇大臣表彰	H〇年〇月
	知事・行政機関の局長表彰	②卓越技能者〇〇県知事表彰：〇〇に係る卓越技能について表彰	H〇年〇月
	全国レベルの業界団体表彰		
	その他	③優秀技能者〇〇市長表彰：〇〇に係る優秀技能について表彰 ④〇〇県職業能力開発協会会長表彰：技能検定の推進貢献について表彰	H〇年〇月 H〇年〇月

表彰歴欄 ※項目名の変更や行の追加など勝手に様式を変えないこと。

表彰を有する場合、表彰の概要及び取得年月を記入。（技能に関連して被推薦者本人が表彰を受けたもののみ記入）表彰の種類は、上段より順に該当項目に記入。

- ・「〇〇大臣賞」の場合は大臣表彰。
- ・「〇〇マイスター（〇〇知事賞）」の場合は知事・行政機関の局長表彰。
- ・「一般社団法人〇〇協会会長賞」の場合は全国レベルの業界団体表彰。

免許・資格等

職業訓練指導員免許の取得歴・技能検定委員の委嘱歴・特許を有する者については、免許・資格等の概要と取得年月を記入し、免許等を証する書面の写しを全て添付する。

免許・資格等	免許の種類	免許・資格等の概要	取得年月
	職業訓練指導員免許	⑤機械科	H〇年〇月
	技能検定委員	⑥〇〇県技能検定委員（機械）	H〇年〇月
	特許・実用新案等	⑦特許123456「〇〇用装置の考案」	H〇年〇月

大会入賞歴等欄

高度熟練技能者、ものづくりマイスター、全技連マイスターに該当する場合は、認定された年度（元号アルファベット+数字）、業種、職種を記入。

技能グランプリ入賞歴、技能五輪国際大会入賞歴、技能五輪全国大会入賞歴がある場合は、開催回、参加職種、順位を記入。具体的留意点の「9.表彰歴」欄を参照のこと。

技能検定欄

等級は漢数字で記入。

技能士の名称、取得年月を記入。

大会 入賞歴等		認定 年度	職 種		技能 検定	等級	技能士の名称	取得年月
	高度熟練技能者					一級	⑩電気機器組立技能士	H〇年〇月
	ものづくりマイスター	H28	⑧〇〇〇〇					
	全技連マイスター							
		開催回	参加職種	順位				
	技能グランプリ (一級技能士競技大会)							
	技能五輪国際大会入賞歴	〇回	⑨機械職種	〇位				
	技能五輪全国大会入賞歴							

記入例（都道府県・団体共通）※本記入例を参照の上、適切な様式にそれぞれ記入すること。

調書（２）都道府県、団体

（様式３の１、様式３の２）

都道府県番号	推薦都道府県名 推薦団体名	職業部門	職種名（１）	職種名（２）	ふりがな	ぎのう しゅういち
〇	〇〇県 または 一般社団法人〇〇協会	第5部門	電子応用機械器具組 立工	電子計算機組立工	氏名	技能 秀一

過去５年の推薦回数欄

過去５年において被推薦者が卓越した技能者の表彰について推薦された年度を記入し、合計回数を確認する。

都道府県番号欄、推薦都道府県名、推薦団体名、職業部門、職種名（１）、職種名（２）、氏名欄

調書（１）に記載したものが自動で反映。

過去５年の推薦回数		推薦者及び推薦理由	（所在地又は住所） 〒 111-1234 都道府県 〇〇県 市区町村 〇〇市〇〇町〇〇-〇 （推薦都道府県知事名）または （推薦団体の代表者名） TEL 000-111-2222 〇〇県知事 〇〇 〇〇 または、一般社団法人〇〇協会 会長 〇〇 〇〇 （推薦理由） （推薦理由） 電子分野の試作品製作における「はんだ付け」を始め、試作品の完成されるまでに必要な電子回路技術、組付技能、計測・評価技能などの電子機器組立に関する技能に卓越している。その技能を活かして、宇宙産業機器や自動車用電子制御製品、ITS製品などの多くの試作を担当し、製品化まで導いた。また、幾多の改善による生産性及び品質の向上や、職場安全に寄与するとともに、多くの後進技能者の指導・育成に貢献した。以上のことから本被推薦者は、電子機器組立に関する優れた技能を伝承するなど、多くの実績があり、県１位として推薦する。
令和５	年度		
令和３	年度		
令和２	年度		
	年度		
	年度		
計	３ 回		
推薦順位等			
選考対象者総数	36人		
推薦総数	7人		
推薦順位	1位		

推薦順位等欄

- ・選考対象者総数欄…推薦に当たり、被推薦者とならなかった者も含め選考の対象とした全ての人数を記入（例えば、50人を選考して、最終的に推薦者が10人となった場合は、「50」を記入する。）。なお、厚生労働大臣への推薦に当たり、管轄の市区町村、商工関係機関又はその他の団体等に推薦を依頼した上で候補者の選定を行っている場合は、当該推薦人数を記載し、潜在的人数を記載するなど、過大な人数を計上しないように留意する。
- ・推薦総数欄…被推薦者の全部門における総数を記入。（1人のみ推薦の団体は不要）
- ・推薦順位欄…被推薦者の全部門における推薦順位を記入。（1人のみ推薦の団体は不要）

卓越した技能の概要欄

P12 4.「卓越した技能の概要」欄に記載の各項目を参照の上記入。一業で記入することが困難な場合は、調書（３）まで記載して差し支えない。

技能の概要	功績・貢献の概要 （社会的貢献活動を含む）	後進指導育成の概要	現役性
電子分野の試作品製作に長年従事して培った知識・技能を有しており、特に下記の技能に優れている。 1. 高信頼性を保障する組立技能 電子機器組立の「はんだ付け」技能と、振動を考慮した組立技能を修練し、その経験と研究から、信頼性の高い工法や工程を生み出した。その技能は、ハイブリッド車や燃料電池車に搭載されている電子制御製品の試作でも基礎となっており、現在は幅広く標準化されている。 2. プリント基板アートワーク技能 電子製品の試作では、小型軽量化が重要課題とされ、その完成度はプリント基板の部品実装密度に大きく左右される。その中でもプリント基板のアートワーク作業において、これまで培った優れたノウハウをベースに創意工夫と研究を重ね、新たなアートワークの工法を生み出した。その技能は現在標準化され、多くの電子製品の試作に適用されている。	1. 宇宙産業機器への貢献 人工衛星搭載用の低振動モータと宇宙環境測定装置の製作において、米国防空宇宙局の要求基準をクリアし、製品化を実現した。この技能は、現在運用中の国際宇宙ステーションの実験モジュール内で使用される真空ポンプ用コントローラの製造にも用いられた。 氏の技能は、宇宙産業事業の発展・拡大に貢献のみならず、〇〇産業の〇〇分野にも応用されている。また、耐震設備の〇〇の製造にも携わり、特に〇〇地震で被災した〇〇地域では氏自らが〇〇に取り組み、復興支援にも貢献した。 2. モータースポーツ活動への貢献 エンジン性能の向上を目指したエンジン制御用コンピュータの試作と量産に取り組み、その結果、高性能な電子部品の組付品質の向上に貢献した。 現在、この工法は標準化され、試作品の組立工法として広く活用されることとなった。	1. 電気・電子関係の国家検定に実技指導員として活躍し、これまでに〇〇名を合格させ、〇〇県技能競技大会において1位入賞者〇〇名を輩出した。 2. 技能五輪大会出場者の指導を通じ、工場よりこれまでに〇〇人を全国大会に出場させた。大会では1位入賞〇〇名の成績を獲得させると共に、〇〇年の国際大会でも1位入賞を果たさせる等、高い指導能力を発揮した。 3. 技能検定補佐員として〇〇年にわたり尽力し、〇〇年から検定委員として、検定（電子機器・配電盤組立）の運営に貢献し、現在も県技能検定専門委員として活躍している。	技能五輪選手を指導する後進の指導員や技能五輪選手の指導、現場管理に尽力している。 また、自ら電子機器組立工として、訓練課題の作製作業に日々従事している。 現在従事している業務内容とその内訳は次のとおりである。 就業時間〇時間 1. 新規課題の検討及び仕様書類の作製（〇時間） 2. 指導方法や訓練内容の検討及び改善（〇時間） 3. 職場内の巡視と指導員や選手への指導・教育（〇時間）

364

272

249

191

記入例

調書（１）一般

(様式 3 の 3)

令和8年11月1日 現在

職業部門	第5部門	職種名（１）	職種名（２）	氏名・現就業先事業所名の外字
		電子応用機械器具組立工	電子計算機組立工	

氏名・ふりがな・性別欄

住民票に記載されている字面で氏名を記入し、ふりがなを付け、名字と名前の間に全角スペースを1つ挿入する。
性別欄は住民票に記載されている性別をプルダウンから選択する。

職業部門番号欄、職種名（１）欄

「実施要領 別表」第1部門～第20部門を参考に職種をプルダウンにて選択し、記入。
(２)欄は手入力する。

氏名・現就業先事業所名の外字欄

被推薦者の氏名・現就業先事業所名に変換できない文字または特定のフォントでしか表示できない文字がある場合、必ず記入。

ふりがな	ぎのう しゅういち	性別		技能・技術が分かるサイト等 (HPのURLを記載)	https://www.mhlw.go.jp/stf/selsakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/meikou/index.html
氏名	技能 秀一				
生年月日	昭和31年12月10日	年齢	69	技能・技術が分かるサイト等欄 自身の技能や技術が分かるサイト（会社・団体HP等）があれば記入。	
現住所	〒000-0000 都道府県 ○○県 市区町村 ○○市○町○丁目○-○ ○○マンション○○号室 TEL 000-000-0000				
生年月日・年齢欄 生年月日を入力すると和暦に変換される。 入力は西暦で「yyyy/mm/dd」（スラッシュ区切り）のように入力すること。「年齢」欄は生年月日を正しく入力すると自動で挿入される。					
現住所欄 被推薦者の現住所および電話番号を記入する。都道府県はプルダウンにて選択。 住民票の住所と実際に居住している居所が異なる場合は、居所を記入。					

就業先欄

所属企業欄には、雇用企業名を、自営の場合は屋号等を省略せず正確に記入（法人格を省略しないこと）。拠点名があれば記入する。（例：「○○工場」「○○支店」「○○営業所」）
また「所在地」欄には、郵便番号、所在地及び電話番号を略さずに記入する。
推薦時に、令和8年11月1日以前に就業地の変更が確定している場合は「（○月○日より変更予定）」と記入。なお、推薦後に就業地が変更となった場合は速やかに連絡する。

職歴欄

就業先事業所の名称、職務内容、地位及び役職等を順番に記入すること。
団体歴、公職歴、家業手伝い、学生時代のアルバイト、推薦を受ける技能と関係の無い職種に従事していた期間は記入しない。ただし、いわゆる企業内学校において、推薦を受ける技能と直接関係がある職種の訓練を受けた期間は職歴とする。
現役の職歴は最後に「として現在に至る」と記入。

就業先 (都道府県)	○○県	企業全体の従業員数欄 被推薦者も含めた人数を半角数字で入力する。就業者が被推薦者のみの場合は、1と入力する。 ※事業所の人数は記載しない。	職歴	在職期間（年月日）	在職年月数
所属名	○○電機 株式会社		△△電機（株）第二製造部○○課に電機工として就職	S49.4.1 ~ S51.3.31	2年0月
企業全体の従業員数	80		○○電機（株）○○工場 第一製造部○○課に電子機器組立工として就職	S51.4.1 ~ H3.3.15	14年11月
所在地	〒111-1111		主任	H3.3.16 ~ H11.9.30	8年6月
都道府県	○○県		○○長	H11.10.1 ~ H26.3.31	14年6月
市区町村	○△市○△区○△町111-1		○長として現在に至る	H26.4.1 ~ R8.11.1	2012年7月
TEL	000-111-1111		在職期間（年月日）・在職年月数欄 在職期間の合計は、計算の上手入力のこと。		
			在職期間 計 51年6ヶ月 重複期間を除く在職期間 計 51年6ヶ月		

現職については、令和8年11月1日をもって終期とすること。

表彰歴、免許・資格、大会入賞歴・技能検定等写しの提出について

本調書に記入した表彰や入賞歴などは、証する写しを全て、「その他資料」として提出すること。

※「様式4 写真」には記載しないこと。

その際には、表彰名や免許、資格名に①、②と番号を振り、根拠となる写しのファイルにも同様に①、②と番号を付すことで、どの根拠資料を示しているかが明確に分かるよう工夫すること。

表彰歴	表彰の種類	表彰の概要	取得年月
	大臣表彰	①第〇回〇〇技能競技全国大会（〇〇の部）〇〇大臣表彰	H〇年〇月
	知事・行政機関の局長表彰	②卓越技能者〇〇県知事表彰：〇〇に係る卓越技能について表彰	H〇年〇月
	全国レベルの業界団体表彰		
	その他	③優秀技能者〇〇市長表彰：〇〇に係る優秀技能について表彰 ④〇〇県職業能力開発協会会長表彰：技能検定の推進貢献について表彰	H〇年〇月 H〇年〇月

表彰歴欄 ※項目名の変更や行の追加など勝手に様式を変えないこと。

表彰を有する場合、表彰の概要及び取得年月を記入。（技能に関連して被推薦者本人が表彰を受けたもののみ記入）表彰の種類は、上段より順に該当項目に記入。

- ・「〇〇大臣賞」の場合は大臣表彰。
- ・「〇〇マイスター（〇〇知事賞）」の場合は知事・行政機関の局長表彰。
- ・「一般社団法人〇〇協会会長賞」の場合は全国レベルの業界団体表彰。

免許・資格等

職業訓練指導員免許の取得歴・技能検定委員の委嘱歴・特許を有する者については、免許・資格等の概要と取得年月を記入し、免許等を証する書面の写しを全て添付する。

免許・資格等	免許の種類	免許・資格等の概要	取得年月
	職業訓練指導員免許	⑤機械科	H〇年〇月
	技能検定委員	⑥〇〇県技能検定委員（機械）	H〇年〇月
	特許・実用新案等	⑦特許123456「〇〇用装置の考案」	H〇年〇月

大会入賞歴等欄

高度熟練技能者、ものづくりマイスター、全技連マイスターに該当する場合は、認定された年度（元号アルファベット＋数字）、業種、職種を記入。

技能グランプリ入賞歴、技能五輪国際大会入賞歴、技能五輪全国大会入賞歴がある場合は、開催回、参加職種、順位を記入。具体的留意点の「9.表彰歴欄」を参照のこと。

技能検定欄

等級は漢数字で記入。
技能士の名称、取得年月を記入。

大会入賞歴等	認定年度	職種		技能検定	等級	技能士の名称	取得年月
		高度熟練技能者			一級	⑩電気機器組立技能士	H〇年〇月
	H28	ものづくりマイスター	⑧〇〇〇〇〇				
		全技連マイスター					
	開催回	参加職種	順位				
		技能グランプリ（一級技能士競技大会）					
	〇回	⑨機械職種	〇位				
		技能五輪国際大会入賞歴					
		技能五輪全国大会入賞歴					

記入例

調書（２）一般

(様式 3 の 3)

職業部門	職種名（１）	職種名（２）	ふりがな	ぎのう しゅういち
第5部門	電子応用機械器具組立工	電子計算機組立工	氏名	技能 秀一

過去5年の推薦回数欄

過去5年において被推薦者が卓越した技能者の表彰について推薦された年度を記入し、合計回数を確認する。

職業部門、職種名（１）、職種名（２）、氏名欄

調書(1)に記載したものが自動で反映。

過去5年の推薦回数		推薦者及 賛同者	推薦者の 所属先	
令和5	年度		推薦者氏名 推薦 太郎 TEL 000-000-0000	
令和4	年度		〒 住所：都道府県 住所：市区町村以下	
令和3	年度		000-0000 〇〇県 〇〇市〇〇町〇〇〇-〇-〇 〇〇マンション〇〇号室	
	年度		賛同者① 〇〇	
	年度		賛同者① 賛同 一郎 TEL 00-0000-0000	
計	3 回		〒 住所：都道府県 住所：市区町村以下	
		000-0000 〇〇県 〇〇市〇〇町〇〇〇-〇-〇 〇〇アパート〇号室		
		賛同者② なし		
		賛同者② 同石 照人 TEL 090-0000-0000		
		〒 住所：都道府県 住所：市区町村以下		
		000-0000 △△県 △△郡〇〇村〇〇〇-〇		
		(推薦理由)		
		電子分野の試作品製作における「はんだ付け」等の電子機器組立に関する技能に卓越している。その技能を活かして、宇宙産業機器や自動車用電子制御製品、ITS製品などの多くの試作を担当し、製品化まで導いた。また、幾多の改善による生産性及び品質の向上や、職場安全に寄与するとともに、多くの後進技能者の指導・育成に貢献した。以上のことから本被推薦者は、電子機器組立に関する優れた技能を伝承するなど、多くの実績があるため推薦する。		
		卓越した技能の概要		

推薦者及び推薦理由欄

推薦者、賛同者①および賛同者②の住所、電話番号及びその推薦理由を記入する。ただし、推薦者、被推薦者及び2人の賛同者は互いに二親等以内（配偶者を含む。）の親族関係になく、かつ、推薦者および2人の賛同者は推薦日時時点で成人に達する者であること。

卓越した技能の概要欄

P12 4. 「卓越した技能の概要」欄に記載の各項目を参照の上記入。一葉で記入することが困難な場合は、調書（3）まで記載して差し支えない。

技能の概要	功績・貢献の概要 (社会的貢献活動を含む)	後進指導育成の概要	現役性
電子分野の試作品製作に長年従事して培った知識・技能を有しており、特に下記の技能に優れている。 1. 高信頼性を保障する組立技能 電子機器組立の「はんだ付け」技能と、振動を考慮した組立技能を修練し、その経験と研究の中から、信頼性の高い工法や工程を生み出したその技能は、ハイブリッド車や燃料電池車に搭載されている電子制御製品の試作でも基礎となっており、現在は幅広く標準化されている。	1. 宇宙産業機器への貢献 人工衛星搭載用の低振動モータと宇宙環境測定装置の製作において、米国防空宇宙局の要求基準をクリアし、製品化を実現した。この技能は、現在運用中の国際宇宙ステーションの実験モジュール内で使用する真空ポンプ用コントローラの製造にも用いられ、宇宙産業事業の拡大に貢献した。 2. モータースポーツ活動への貢献 エンジン性能の向上を目指したエンジン制御用コンピュータの試作と量産に取り組んだその結果、高性能な電子部品の組付品質の向上に貢献した。 現在、この工法は標準化され、試作品の組立工法として広く活用されることとなった。	1. 電気・電子関係の国家検定に実技指導員として活躍し、これまでに〇〇名を合格させ、〇〇県技能競技大会において1位入賞者〇〇名を輩出した。 2. 技能五輪大会出場者の指導を通じ、工場よりこれまでに〇〇人を全国大会に出場させた。大会では1位入賞〇名の成績を獲得させると共に〇〇年の国際大会でも1位入賞を果たさせる等、高い指導能力を発揮した。 3. 技能検定補佐員として〇〇年にわたり尽力し、〇〇年から検定委員として、検定（電子機器・配電盤組立）の運営に貢献し、現在も県技能検定専門委員として活躍している。	技能五輪選手を指導する後進の指導員や技能五輪選手の指導、現場管理に尽力している。 また、自ら電子機器組立工として、訓練課題の作製作業に日々従事している。 現在従事している業務内容とその内訳は次のとおりである。 就業時間〇時間 1. 新規課題の検討及び仕様書類の作製（〇時間） 2. 指導方法や訓練内容の検討及び改善（〇時間） 3. 職場内の巡視と指導員や選手への指導・教育（〇時間）

190

272

249

191

記入例（都道府県・団体共通）※本記入例を参照の上、適切な様式にそれぞれ記入すること。

調書（１）都道府県、団体（第21部門）

（様式3の4、様式3の5）

令和8年11月1日 現在

都道府県番号	〇	推薦都道府県名 推薦団体名	職業部門	第21部門	職種名（１）	職種名（２）
		〇〇県 または 一般社団法人〇〇協会			数値制御金属工作機械工	マシニングセンタオペレーター

推薦都道府県名欄、都道府県番号欄

プルダウンから推薦都道府県名を選択。
選択した都道府県に対応する番号が自動で都道府県番号欄に挿入される。

推薦団体名欄

正式名称を記入。

職業部門番号欄、職種名（１）欄

「実施要領 別表」第1部門～第20部門を参考に職種をプルダウンにて選択し、記入。

（２）欄は手入力する。

氏名・現就業先事業所名の外字欄

被推薦者の氏名・現就業先事業所名に変換できない文字または特定のフォントでしか表示できない文字がある場合、必ず記入。

氏名・ふりがな・性別欄

住民票に記載されている字面で氏名を記入し、ふりがなを付け、名字と名前の間に全角スペースを1つ挿入する。
性別欄は住民票に記載されている性別をプルダウンから選択する。

ふりがな 氏名	ぎのう ゆうこ 技能 優子	性別 年齢	女 52	生年月日 昭和48年10月17日	氏名・現就業先事業所名の外字 例：「藤」は草冠が「十」のように離れた字、「刃」は「刃」のように突き出る字
障害名 障害程度	障害名 身体障害 (聴覚障害)	障害程度 (等級)	2級	療育手帳 判定	【障害程度について】 ○療育手帳による程度の区分 療育手帳等で次の記載が確認される場合は「A」を選択（⑤、A、A1、A2、A3、1度、2度、A重、A中、A2a、A2b、A最重度、A重度）。それ以外は「B」を選択。 ○重度知的障害者判定による重度判定 療育手帳による程度の区分「B」のうち、地域障害者職業センターが行う重度知的障害者判定を受け、判定書が交付された者について、当てはまる判定を選択。
障害の概要	障害の概要欄 具体的にどのような障害であるかを記入する。				
現住所	障害名・障害程度欄 被推薦者の障害者手帳に記載されている障害名及び障害程度をプルダウンから選択する。				
〒 000-0000 都道府県 〇〇県 市区町村 〇〇市〇〇町〇丁目〇-〇 〇〇マンション〇〇号室 TEL 000-000-0000	生年月日・年齢欄 生年月日を入力すると和暦に変換される。 入力法は西暦で「yyyy/mm/dd」（スラッシュ区切り）の入力すること。「年齢」欄は生年月日を正しく入力すると自動で挿入される。				
	現住所欄 被推薦者の現住所および電話番号を記入する。都道府県はプルダウンにて選択。 住民票の住所と実際に居住している居所が異なる場合は、居所を記入。				

就業先欄

所属企業欄には、雇用企業名を、自営の場合は屋号等を省略せず正確に記入（法人格を省略しないこと）。拠点名があれば記入する。（例：「〇〇工場」「〇〇支店」「〇〇営業所」）
また「所在地」欄には、郵便番号、所在地及び電話番号を略さずに記入する。
推薦時に、令和8年11月1日以前に就業地の変更が確定している場合は、「（〇月〇日より変更予定）」と記入。なお、推薦後に就業地が変更となった場合は速やかに連絡する。

職歴欄

就業先事業所の名称、職務内容、地位及び役職等を順番に記入すること。
団体歴、公職歴、家業手伝い、学生時代のアルバイト、推薦を受ける技能と関係の無い職種に従事していた期間は記入しない。ただし、いわゆる企業内学校において、推薦を受ける技能と直接関係がある職種の訓練を受けた期間は職歴とする。
現役の職歴は最後に「として現在に至る」と記入。

就業先 (都道府県)	所属名	株式会社 〇〇工業 〇〇支部	企業全体の従業員数 120人	所在地	〒 000-0000 都道府県 〇〇県 市区町村 〇〇市〇〇町〇〇〇-〇	TEL 000-000-0000 (内線****)
	企業全体の従業員数欄 被推薦者も含めた人数を半角数字で入力する。就業者が被推薦者のみの場合は、1と入力する。 ※事業所の人数は記載しない。					
	職歴	在職期間（年月日） 在職年数 (株) 〇〇工業 〇〇支部 第二製造部 〇〇課に電機工として就業 H8. 4. 1 ~ H27. 3. 31 19年0月 (株) 〇〇工業 〇〇支部 第二製造部 × 課に配置転換 H27. 4. 1 ~ R2. 3. 31 5年0月 〇〇課の × × 班の指導係員に就任し現在に至る R2. 4. 1 ~ R8. 11. 1 6年7ヶ月				
	在職期間（年月日）・在職年数欄 在職期間の合計は、計算の上手入力のこと。 重複期間を除く在職期間 計 30年7ヶ月 在職期間 計 30年7ヶ月					

現職については、令和8年11月1日をもって終期とすること。

表彰歴、免許・資格、大会入賞歴・技能検定等写しの提出について

本調査に記入した表彰や入賞歴などは、証する写しを全て、「その他資料」として提出すること。

※「様式4 写真」には記載しないこと。

その際には、表彰名や免許、資格名に①、②と番号を振り、根拠となる写しのファイルにも同様に①、②と番号を付すことで、どの根拠資料を示しているかが明確に分かるよう工夫すること。

表彰歴	表彰の種類	表彰の概要	取得年月
	大臣表彰	①障害者雇用優良事業所等厚生労働大臣表彰（優秀勤労障害者）	H〇年〇月
	知事・行政機関の局長表彰	②〇〇県優秀勤労障害者	H〇年〇月
	全国レベルの業界団体表彰		
	その他		

表彰歴欄 ※項目名の変更や行の追加など勝手に様式を変えないこと。

表彰を有する場合、表彰の概要及び取得年月を記入。（技能に関して被推薦者本人が表彰を受けたもののみ記入）表彰の種類は、上段より順に該当項目に記入。

- ・「〇〇大臣賞」の場合は大臣表彰。
- ・「〇〇マイスター（〇〇知事賞）」の場合は知事・行政機関の局長表彰。
- ・「一般社団法人〇〇協会会長賞」の場合は全国レベルの業界団体表彰。

免許・資格等

職業訓練指導員免許の取得歴・技能検定委員の委嘱歴・特許を有する者については、免許・資格等の概要と取得年月を記入し、免許等を証する書面の写しを全て添付する。

免許・資格等	免許の種類		免許・資格等の概要					取得年月
	職業訓練指導員免許							
	技能検定委員							
	特許・実用新案等							
アビリンピック入賞歴	大会名など	開催回 認定年度	競技種目名	順位	技能 検定	等級	技能士の名称	取得年月
	国際アビリンピック					一級	⑥機械加工技能士	H〇年〇月
	全国障害者技能競技大会 (全国アビリンピック)	32回	③機械CAD	銅賞				
	地方アビリンピック	10回	④機械CAD	銀賞				
大会表彰歴等	技能グランプリ (一級技能士競技大会)						技能検定欄 等級は漢数字で記入。 技能士の名称、取得年月を記入。	
	技能五輪国際大会入賞歴	技能・技術が分かるサイト等欄 自身の技能や技術が分かるサイト（会社・団体HP等）があれば記入。						
	技能五輪全国大会入賞歴							
	高度熟練技能者						https://www.mhiw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kyouyou_roudou/000/index.html	
	ものづくりマイスター	H〇年度	⑤〇〇〇〇	〇位	技能・技術が 分かるサイト等 (HPのURLを記載)			
	全技連マイスター							

技能検定欄

等級は漢数字で記入。
技能士の名称、取得年月を記入。

技能・技術が分かるサイト等欄

自身の技能や技術が分かるサイト（会社・団体HP等）があれば記入。

技能・技術が
分かるサイト等
(HPのURLを記載)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/ko-you_roudou/〇〇〇/index.html

アビリンピック入賞歴・大会入賞歴等欄

高度熟練技能者、ものづくりマイスター、全技連マイスターに該当する場合は、認定された年度（元号アルファベット+数字）、業種、職種を記入。

国際アビリンピック入賞歴、全国アビリンピック入賞歴、地方アビリンピック入賞歴、技能グランプリ入賞歴、技能五輪国際大会入賞歴、技能五輪全国大会入賞歴がある場合は、開催回、参加職種、順位を記入。

具体的留意点の「9.表彰歴欄」を参照のこと。

記入例（都道府県・団体共通）※本記入例を参照の上、適切な様式にそれぞれ記入すること。

調書（２）都道府県、団体（第21部門）

（様式３の４、５）

都道府県番号	都道府県名	職業部門	職種名（１）	職種名（２）	ふりがな	ぎのう ゆうこ
○	〇〇県 または 一般社団法人〇〇協会	第21部門	数値制御金属工作機械工	マシニングセンタオペレーター	氏名	技能 優子

過去５年の推薦回数欄

過去５年において被推薦者が卓越した技能者の表彰について推薦された年度を記入し、合計回数を確認する。

都道府県番号欄、推薦都道府県名、推薦団体名、職業部門、職種名（１）、職種名（２）、氏名欄

調書（１）に記載したものが自動で反映。

過去５年の推薦回数		推薦者及び推薦理由	(所在地又は住所)		推薦者及び推薦理由欄 推薦者の所在地または住所、電話番号及びその推薦理由を記入する。推薦者氏名は、都道府県知事名または団体代表者氏名とするが、空席時等やむをえない場合は職務代行者であることを明記し、職務代行者名を記入。 都道府県知事推薦の１位の者に関しては、他の候補者と比較して最上位とした理由も併せて記入。
令和４	年度		〒	000-0000	
令和３	年度		都道府県	〇〇県	
	年度		市区町村	〇〇市〇〇町〇〇-〇	
	年度				
	年度				
計	2 回		(推薦都道府県知事名)		TEL 000-111-1111
			〇〇県知事 〇〇 〇〇 または、 一般社団法人〇〇協会 会長 〇〇 〇〇		
推薦総数等			(推薦理由)		
選考対象者総数	2人	氏は〇〇の障害があるものの、マシニングセンタオペレーターにかかる優れた技能を有しており、その技能を活かして、最も重要かつ高い技能が求められる〇〇業務に指導係員として従事している。職場では障害者雇用への理解が深く、その技能の実現のためには、障害による作業効率低下しないよう、〇〇の工夫をする等職場環境の改善を図り、卓越した技能になるに至った。日々の業務においても、後進者の指導に尽くし、事業所全体の技能レベルの向上にも大きく貢献した。また、〇年にわたりアビリンピックの指導を行い、数多くの全国アビリンピック受賞者を輩出するなど、後進技能者の指導・育成に貢献した。以上のことから本被推薦者は、優れた技能を有するとともに、その技能を伝承する上で大きな役割を担っているため推薦する。			
推薦総数	1人				

推薦総数等欄

・選考対象者総数欄…推薦に当たり、被推薦者とならなかった者も含め選考の対象とした全ての人数を記入。なお、厚生労働大臣への推薦に当たり、管轄の市区町村、商工関係機関又はその他の団体等に推薦を依頼した上で候補者の選定を行っている場合は、当該推薦人数を記載し、潜在的人数を記載するなど、過大な人数を計上しないように留意する。

・推薦総数欄…被推薦者の全部門における総数を記入。（１人のみ推薦の団体は不要）

卓越した技能の概要欄

P12 4. 「卓越した技能の概要」欄に記載の各項目を参照の上記入。一葉で記入することが困難な場合は、調書（3）まで記載して差し支えない。

なお、自身の持つ障害に触れながら障害をどのように乗り越えて技能のレベルを高めてきたのか、また被推薦者の技能向上のために職場環境の工夫や取組みについても具体的に記入する。

卓越した技能の概要			
技能の概要 (障害の克服と技能研鑽への工夫や取組み)	功績・貢献の概要 (社会的貢献活動を含む)	技能の指導及び育成の概要	現役性
1 優れた組立技能 氏は〇〇の障害がありながらも、機械CADをはじめとした、マシンニングセンタオペレーターにかかる卓越した技能を有する。1/1000単位等非常に正確さを要するこの作業について、金属の性質や回転数を考慮しながら、他の技能者であれば、その品質は〇〇単位の精度が求められるところ、その更に1/10の〇〇単位の精度までの加工を行うことによって、緻密且つ高品質な製作を行っていることから通常〇〇日かかるところ、氏は障害により遅れがちとなる作業スピードを卓越した技能によって通常〇〇日かかるところを〇日で仕上げ、稼働率は〇〇%アップし、且つ、高品質な製品を実現し、企業の業績にも大きく貢献している。また、氏の存在により安定稼働がなされているといっても過言でない。 このような極めて優れた技術も、氏は人一倍努力を積み重ね、技能を研鑽するだけでなく、その技能を実現するため、障害による作業効率低下しないよう、職場環境の改善として、〇〇の措置を講じるなどをした。このことによって、事業所全体の環境改善に目を向けることができ、引いては技能レベルの向上に大きく貢献した。	1 業績への貢献 氏の製品づくりは、高度な技能による精度の追求や、スピードだけではない。 取引先が新製品の開発の相談があれば、複雑な形状への困難とされる加工も行うことができるため、多種多様な提案を行うことができ、また、氏の提案には自信の経験から障害雇用にも配慮されたものとなっている。こうしたことから、先方の企業からは、非常に満足度が高い評価を受け、引いては売り上げ高にも貢献するなど、企業自体の信頼度も高めている。 2 業界における障害がある技能者の技能向上への貢献 全国アビリンピックに機械CAD職種として〇度出場し、第32回大会では銅賞を受賞するなど、業界における障害がある技能者の技能向上に多大な貢献をした。 3 社内への貢献 氏は〇〇社〇〇部門に採用され、勤続〇〇年従事しており、その知識と技能は、他の従業員の模範となっており、周囲の従業員からも相談を受けたり、指導も行っている。	1 第二製造部〇〇課××班における後進者指導 上記班に所属する〇名の職員に対し〇〇業務の指導を行い、職員に豊富な知識を伝えることで、事業所内の周囲や職員の後進の育成に貢献している。 2 アビリンピックの指導 氏は過去に出場した経験を生かし、どのような指導を行えば効率的に競技大会で好成績を取めることができるか、といった感性を体得しており、第二製造部〇〇課××班の指導係員として日々〇〇業務に従事する傍ら、アビリンピックの指導を行い後進育成にも尽力している。優れた技能を用いて、〇〇年間にわたり、〇〇職種の指導を行ったことで、〇名が全国アビリンピックに出場し、うち△名が受賞した。	1 氏は、第二製造部〇〇課××班の職員として勤務しているが、人柄は温厚で、誰とも親しくコミュニケーションを取れる人気者であり、所属部署の職員だけでなく、社内の雰囲気づくりに貢献している。 2 勤務態度についても、挨拶等しっかりした礼節の下、時間に遅れることなく、熱心に業務に取り組んでいる。 1日の主な作業内容及び時間は次のとおり。 1 〇〇業務：〇時間 2 大会指導：〇時間 (大会直前期は△時間)

229

189

171

119

令和8年11月1日 現在

(様式 3 の 6)

	職業部門	第21部門	職種名(1)	職種名(2)
			数値制御金属工作機械工	マシニングセンタオペレーター

(2) 欄は手入力する。

被推薦者の氏名・現就業先事業所名に変換できない文字または特定のフォントでしか表示できない文字がある場合、必ず記入。

住民票に記載されている字面で氏名を記入し、ふりがなを付け、名字と名前の間に全角スペースを1つ挿入する。
性別欄は住民票に記載されている性別をプルダウンから選択する。

ふりがな	ぎのう ゆうこ	性別	女	生年月日	氏名・現就業先事業所名の外字
氏名	技能 優子	年齢	52	昭和48年10月17日	例:「藤」は草冠が「十」のように離れた字、「刃」は「夕」のように突き出る字

障害名 障害程度	障害名	障害程度 (等級)	療育手帳 判定	【障害程度について】 ○療育手帳による程度の区分 療育手帳等で次の記載が確認される場合は「A」を選択（④、A、A1、A2、A3、1度、2度、A重、A中、A2a、A2b、A最重度、A重度）。それ以外は「B」を選択。 ○重度知的障害者判定による重度判定 療育手帳による程度の区分「B」のうち、地域障害者職業センターが行う重度知的障害者判定を受け、判定書が交付された者について、当てはまる判定を選択。
	身体障害 (聴覚障害)	2級		
障害の概要	障害の概要欄 具体的にどのような障害であるかを記入する。			

現住所 〒 000-0000 都道府県 ○○県 市区町村 ○○市○○町○丁目○-○ ○○マンション○○号室 TEL 000-000-0000	障害名・障害程度欄 被推薦者の障害者手帳に記載されている障害名 及び障害程度をプルダウンから選択する。	生年月日・年齢欄 生年月日を入力すると和暦に変換される。 入力は西暦で「yyyy/mm/dd」（スラッシュ区切り）のように入力すること。「年齢」欄は生年月日を正しく入力すると自動で挿入される。
	現住所欄 被推薦者の現住所および電話番号を記入する。都道府県はプルダウンにて選択。 住民票の住所と実際に居住している居所が異なる場合は、居所を記入。	

所属企業欄には、雇用企業名を、自営の場合は屋号等を省略せず正確に記入（法人格を省略しないこと）。拠点名があれば記入する。（例：「〇〇工場」「〇〇支店」「〇〇営業所」）

また「所在地」欄には、郵便番号、所在地及び電話番号を略さずに記入する。

推薦時に、令和8年11月1日以前に就業地の変更が確定している場合は「（〇月〇日より変更予定）」と記入。なお、推薦後に就業地が変更となった場合は速やかに連絡する。

就業先事業所の名称、職務内容、地位及び役職等を順番に記入すること。
団体歴、公職歴、家業手伝い、学生時代のアルバイト、推薦を受ける技能
と関係の無い職種に従事していた期間は記入しない。ただし、いわゆる企
業内学校において、推薦を受ける技能と直接関係がある職種の訓練を受け
た期間は職歴とする。
現役の職歴は最後に「として現在に至る」と記入。

就業地 (都道府県)		職業		在職期間 (年月日)		在職年月数
所属名	株式会社 ○○工業	企業全体の従業員数欄 被推薦者も含めた人数を半角数字で入力する。就業者が被推薦者のみの場合は、1と入力する。 ※事業所の人数は記載しない。		(株) ○○工業○○支部第二製造部○○課 電機工として就業	H8. 4. 1 ~ H27. 3. 31	19年0月
○○支部				(株) ○○工業○○支部第二製造部××課 配置転換	H27. 4. 1 ~ R2. 3. 31	5年0月
企業全体の従業員数	120人			同課の××班の指導係員に就任し現在に至る	R2. 4. 1 ~ R8. 11. 1	6年7ヶ月
所在地	〒 000-0000					0年0ヶ月
都道府県	○○県	在職期間 (年月日) ・ 在職年月数欄 在職期間の合計は、計算の上手入力のこと。				0年0ヶ月
市区町村	○○市○○町○○○-○					0年0ヶ月
TEL	000-000-0000 (内線****)			重複期間を除く	在職期間 計	30年7ヶ月

現職については、令和8年11月1日をもって終期とすること。

表彰歴、免許・資格、大会入賞歴・技能検定等写しの提出について

本調書に記入した表彰や入賞歴などは、証する写しを全て、「その他資料」として提出すること。

※「様式4 写真」には記載しないこと。

その際には、表彰名や免許・資格名に①、②と番号を振り、根拠となる写しのファイルにも同様に①、②と番号を付すことで、どの根拠資料を示しているかが明確に分かるよう工夫すること。

表彰歴	表彰の種類	表彰の概要	取得年月
	大臣表彰	①障害者雇用優良事業所等厚生労働大臣表彰（優秀勤労障害者）	H〇年〇月
	知事・行政機関の局長表彰	②〇〇県優秀勤労障害者	H〇年〇月
	全国レベルの業界団体表彰		
	その他		

表彰歴欄 ※項目名の変更や行の追加など勝手に様式を変えないこと。

表彰を有する場合、表彰の概要及び取得年月を記入。（技能に関連して被推薦者本人が表彰を受けたもののみ記入）表彰の種類は、上段より順に該当項目に記入。

- ・「〇〇大臣賞」の場合は大臣表彰。
- ・「〇〇マイスター（〇〇知事賞）」の場合は知事・行政機関の局長表彰。
- ・「一般社団法人〇〇協会会長賞」の場合は全国レベルの業界団体表彰。

免許・資格等

職業訓練指導員免許の取得歴・技能検定委員の委嘱歴・特許を有する者については、免許・資格等の概要と取得年月を記入し、免許等を証する書面の写しを全て添付する。

免許・資格等	免許の種類		免許・資格等の概要				取得年月	
	職業訓練指導員免許							
	技能検定委員							
	特許・実用新案等							
アビリンピック入賞歴	大会名など	開催回 認定年度	競技種目名	順位	技能 検定	等級	技能士の名称	取得年月
	国際アビリンピック					一級	⑥機械加工技能士	H〇年〇月
	全国障害者技能競技大会 (全国アビリンピック)	32回	③機械CAD	銅賞				
	地方アビリンピック	10回	④機械CAD	銀賞				
大会 表彰歴等	技能グランプリ (一級技能士競技大会)				技能・技術が 分かるサイト等 (HPのURLを記載)	技能検定欄 等級は漢数字で記入。 技能士の名称、取得年月を記入。		
	技能五輪国際大会入賞歴							
	技能五輪全国大会入賞歴					https://www.mhlw.go.jp/stf/selsakunitsulte/bunya/ko you_roudou/〇〇〇/index.html		
	高度熟練技能者							
	ものづくりマイスター	H〇年度	⑤〇〇〇〇	〇位				
	全技連マイスター							

技能・技術が分かるサイト等欄

自身の技能や技術が分かるサイト（会社・団体HP等）があれば記入。

アビリンピック入賞歴・大会入賞歴等欄

高度熟練技能者、ものづくりマイスター、全技連マイスターに該当する場合は、認定された年度（元号アルファベット＋数字）、業種、職種を記入。

国際アビリンピック入賞歴、全国アビリンピック入賞歴、地方アビリンピック入賞歴、技能グランプリ入賞歴、技能五輪国際大会入賞歴、技能五輪全国大会入賞歴がある場合は、開催回、参加職種、順位を記入。

留意点の「9.表彰歴欄」を参照のこと。

記入例

調査（２）一般（第21部門）

（様式3の6）

職業部門	職種名（１）	職種名（２）	ふりがな	ぎのう ゆうこ
第21部門	数値制御金属工作機械工	マシニングセンタオペレーター	氏名	技能 優子

過去5年の推薦回数欄

過去5年において被推薦者が卓越した技能者の表彰について推薦された年度を記入し、合計回数を確認する。

職業部門、職種名（１）、職種名（２）、氏名欄

調査1に記載したものが自動で反映。

過去5年の推薦回数	推薦者の所属先	〇〇〇〇 〇〇長
令和4 年度	推薦者氏名	推薦 太郎 TEL 000-000-0000
令和3 年度	〒 住所：都道府県	住所：市区町村以下
年度	000-0000 〇〇県	〇〇市〇〇町〇〇〇-〇-〇 〇〇マンション〇〇号室
年度	賛同者①の所属先	〇〇
年度	賛同者①氏名	賛同 一郎 TEL 000-000-1111
計 2 回	〒 住所：都道府県	住所：市区町村以下
	000-0000 〇〇県	〇〇市〇〇町〇〇〇-〇-〇 〇〇アパート〇号室
	賛同者②の所属先	なし
	賛同者②氏名	同石 照人 TEL 090-0000-0000
	〒 住所：都道府県	住所：市区町村以下
	000-0000 △△県	△△郡〇〇村〇〇〇-〇
	（推薦理由） 氏は〇〇の障害があるものの、マシニングセンタオペレーターにかかる優れた技能を有しており、その技能を活かして、最も重要かつ高い技能が求められる〇〇業務に指導係員として従事している。職場では障害者雇用への理解が深く、その技能の実現のためには、障害による作業効率が低下しないよう、〇〇の工夫をする等職場環境の改善を図り、卓越した技能になるに至った。日々の業務においても、後進者の指導に尽くし、事業所全体の技能レベルの向上にも大きく貢献した。また、〇年にわたりアビリンピックの指導を行い、数多くの全国アビリンピック受賞者を輩出するなど、後進技能者の指導・育成に貢献した。以上のことから本被推薦者は、優れた技能を有するとともに、その技能を伝承する上で大きな役割を担っているため推薦する。	

卓越した技能の概要欄

P12 4. 「卓越した技能の概要」欄に記載の各項目を参照の上記入。一葉で記入することが困難な場合は、調書（3）まで記載して差し支えない。
 なお、自身の持つ障害に触れながら障害をどのように乗り越えて技能のレベルを高めてきたのか、また被推薦者の技能向上のために職場環境の工夫や取組みについても具体的に記入する。

卓越した技能の概要			
技能の概要 (障害の克服と技能研鑽への工夫や取組み)	功績・貢献の概要 (社会的貢献活動を含む)	技能の指導及び育成の概要	現役性
1 優れた組立技能 氏は〇〇の障害がありながらも、機械CADをはじめとした、マシンニングセンタオペレーターにかかる卓越した技能を有する。1/1000単位等非常に正確さを要するこの作業について、金属の性質や回転数を考慮しながら、他の技能者であれば、その品質は〇〇単位の精度が求められるところ、その更に1/10の〇〇単位の精度までの加工を行うことによって、緻密且つ高品質な製作を行っていることから通常〇〇日かかるところ、氏は障害により遅れがちとなる作業スピードを卓越した技能によって通常〇日かかるところを〇日で仕上げ、稼働率は〇〇%アップし、且つ、高品質な製品を実現し、企業の業績にも大きく貢献している。また、氏の存在により安定稼働がなされているといっても過言でない。 このような極めて優れた技術も、氏は人一倍努力を積み重ね技能を研鑽するだけではなく、その技能を実現するため、障害による作業効率低下しないよう、職場環境の改善として、〇〇の措置を講じるなどをした。このことによって、事業所全体の環境改善に目を向けることができ、引いては技能レベルの向上に大きく貢献した。	1 業績への貢献 氏の製品づくりは、高度な技能による精度の追求や、スピードだけではない。 取引先が新製品の開発の相談があれば、複雑な形状への困難とされる加工も行うことができるため、多種多様な提案を行うことができ、また、氏の提案には自信の経験から障害雇用にも配慮されたものとなっている。こうしたことから、先方の企業からは、非常に満足度が高い評価を受け、引いては売り上げ高にも貢献するなど、企業自体の信頼度も高めている。 2 業界における障害がある技能者の技能向上への貢献 全国アビリンピックに機械CAD職種として〇度出場し、第32回大会では銅賞を受賞するなど、業界における障害がある技能者の技能向上に多大な貢献をした。 3 社内への貢献 氏は〇〇社〇〇部門に採用され、勤続〇〇年従事しており、その知識と技能は、他の従業員の模範となっており、周囲の従業員からも相談を受けたり、指導も行っている。	1 第二製造部〇〇課××班における後進者指導 上記班に所属する〇名の職員に対し〇〇業務の指導を行い、職員に豊富な知識を伝えることで、事業所内の周囲や職員の後進の育成に貢献している。 2 アビリンピックの指導 氏は過去に出場した経験を生かし、どのような指導を行えば効率的に競技大会で好成績を収めることができるか、といった感性を体得しており、第二製造部〇〇課××班の指導係員として日々〇〇業務に従事する傍ら、アビリンピックの指導を行い後進育成にも尽力している。優れた技能を用いて、〇〇年間にわたり、〇〇職種の指導を行ったことで、〇名が全国アビリンピックに出場し、うち△名が受賞した。	1 氏は、第二製造部〇〇課××班の職員として勤務しているが、人柄は温厚で、誰とも親しくコミュニケーションを取れる人気者であり、所属部署の職員だけでなく、社内の雰囲気づくりに貢献している。 2 勤務態度についても、挨拶等しっかりした礼節の下、時間に遅れることなく、熱心に業務に取り組んでいる。 1日の主な作業内容及び時間は次のとおり。 1 〇〇業務：〇時間 2 大会指導：〇時間 （大会直前期は△時間）

229

187

171

119

職業 部門	第16部門	被推薦 者氏名	技能 秀子	撮影 年月日	令和7年5月3日
----------	-------	------------	-------	-----------	----------

直近1年以内の作業風景写真を必ず1枚以上添付する。

写真添付欄 (①作業風景)

【注意点1】

該当職種で求められる安全面や衛生面に留意している①作業風景写真を添付する。

合致しない写真例



着帽せず、髪も束ねていない

合致する写真例



着帽し衛生面に充分配慮していることが見て取れる

写真
説明

地元の名産である〇〇を積極的に自店のメニューに取り入れて使用するなど、地産地消に努めている。また、今まで多く廃棄されてきた野菜の芯や皮を利用し、フードロスの削減にも力を入れるなど、環境面にも配慮した取り組みを行っている。

職業 部門	第9部門	被推薦 者氏名	技能 秀雄	撮影 年月日	令和7年5月
----------	------	------------	-------	-----------	--------

写真添付欄 (②作業工程)

【注意点2】

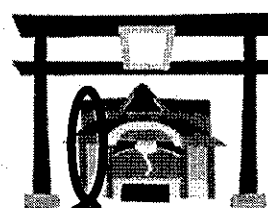
②作業工程写真として、製品の間で用いられる部品等を製造している場合は、最終的な制作物においてその部品がどのように使われているのか記載すること。

合致しない写真例



最終的にどのように用いられているのか分かりづらい

合致する写真例



〇〇氏の製品をここで使用

写真
説明

〇〇神社の修繕の際に用いられた〇〇の部品製造に深く携わる。氏の制作した部品は、伝統的な〇〇造りを支える上で欠かすことの出来ないものであり、その技術の高さゆえに幾つもの伝統社寺の修繕に用いられている。

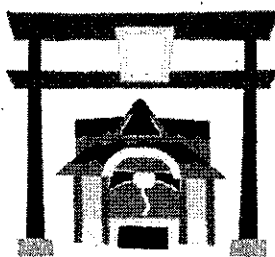
職業 部門	第9部門	被推薦 者氏名	技能 秀雄	撮影 年月日	令和7年11月3日
----------	------	------------	-------	-----------	-----------

写真添付欄 (③製作物・作品)

【注意点3】

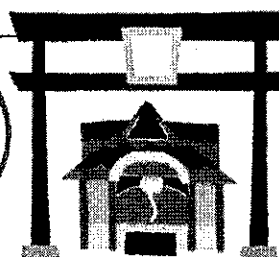
③製作物(作品)については、現役性の担保のため、直近1年以内の写真を1枚以上添付すること。(ただし、製作期間が長期にわたる場合は、最新のものが可)

合致しない写真例



古い作品写真し
かない
(直近1年以内
に撮影した作品
写真がない)

合致する写真例



直近1年以
内に撮影し
た作品写
真がある

写真
説明

〇〇年～〇〇年にかけて氏が修繕に携わった〇〇神社。〇〇造りや〇〇伝統的な技法を用いた、〇〇の技術が活かされている。

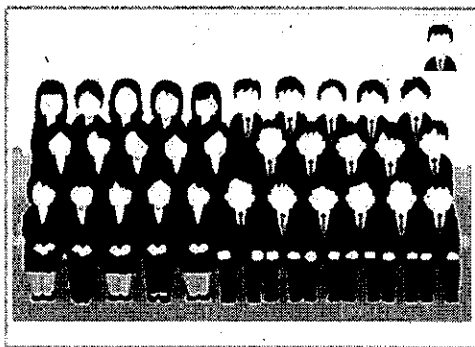
職業 部門	第16部門	被推薦 者氏名	技能 秀子	撮影 年月日	令和7年7月
----------	-------	------------	-------	-----------	--------

写真添付欄 (④後進の指導育成)

【注意点4】

④後進の指導育成が行われていることの分かる写真を添付する。

合致しない写真例



実際、具体
的にどのよ
うな指導を
行ったのか
分からない

合致する写真例



指導風景が分
かる写真がある

写真
説明

〇〇小学校等、計〇校の小学校に対し、体験料理教室を実施し、技能尊重の機運醸成に貢献。
・包丁の持ち方や、野菜の切り方、根菜・葉物など種類によって熱の通り方に違いが出ることを説明した上で、火にかける順番を指導し、熟練した技能を実演して見せた。

(様式5)

必ず記載すること。

専門用語集 (例)

用語	ふりがな	内 容
・ 卓越した技能者の表彰	・ たくえつしたぎのうし やのひょうしょう	・ 卓越した技能者の表彰制度は、厚生労働大臣が我が国の最高水準にある優れた技能者を表彰することにより、技能労働尊重の気運を高め、技能者の地位及び技能水準の向上を図るとともに、青少年が誇りを持って技能者になろうとする社会的基盤を築こうとするものである。
・ ○○○	・ △△△△	・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。
・ □□ ┆	・ △△△△△ ┆	・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

※必要に応じ画像や図表を添付し、分かりやすく記載する工夫があると良い。

ただし、本ファイルを含む推薦書類の合計サイズが被推薦者1人につき指定された容量以内となるよう、適宜トリミング部分の削除や不鮮明にならない範囲での画像圧縮等を行うこと。

※提出書類中に解説を要する専門用語が1つも無い場合は、提出は不要とする。

(記載例)

(様式6の1)

推薦理由書

1. 被推薦者

ふりがな	ぎのう しゅういち	生年月日	
氏名	技能 秀一	男・女	男 31年12月10日(68歳)
現住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇号 TEL〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇		

令和8年11月1日現在の満年齢を記入すること。

2. 推薦理由(具体的に記入すること。)

技能秀一氏は、昭和〇〇年〇〇会社に〇〇工として入社し、以降終始〇〇〇の製造の業務に従事し、その間技能の研さんに努めて精励し、次のごとく卓越した技能を有し幾多の考案、改善によって生産能率の増進に貢献するとともに後進技能者の指導育成に尽くしたものであるが、特に〇〇〇の技能については業界における第一人者といわれている。

1. 〇〇〇の技能

2. 功績・貢献〇〇〇の考案 昭和〇〇年〇月の・・・

推薦理由は、参考に記載したものであり、記載の分量は例によらず具体的かつわかりやすく詳細に記入すること。

3. 後進の指導育成

被推薦者・推薦者・2名の賛同者は互いに二親等以内の親族ではないこと。

推薦書提出年月日時点の満年齢を記入すること。なお、推薦者および2名の賛同者は成人に達した者であること。

3. 推薦者の氏名等

ふりがな	△△△△ △△△△	年 齢	推薦書提出年月日
氏 名	△ △ △ △	満〇〇歳	令和〇〇年〇〇月〇〇日
主要経歴	1 自営業 2 会社経営者 3 会社員 4 団体職員 5 公務員 6 主婦	性別・主要経歴欄はそれぞれあてはまるものを囲む。	被推薦者との関係 会社の上司
現住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇号 TEL〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇 FAX〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇 E-mail〇〇〇〇〇		

携帯番号など日中に必ず連絡がつく番号を記載する。

4. 推薦者の署名

私は、以下に続く2名の賛同を得て、上記推薦理由により、被推薦者を卓越した技能者の表彰の候補者としてふさわしい者として推薦します。

署名

以下、賛同者①の項目に続く。

(記載例)

(様式6の2)

賛同理由書①

1. 被推薦者及び推薦者

被推薦者		推薦者	
ふりがな	ぎのう しゅういち	ふりがな	△△△△ △△△△
氏名	技能 秀一	氏名	△ △ △ △

2. 賛同者①の賛同理由（具体的に記入すること。）

技能秀一氏は、〇〇における技能に卓越し、〇〇技術の開発に多大な貢献をした。さらに技能者の育成に尽力するなど、〇〇業界における技能振興を牽引してきた。
また、・・・

賛同理由は、参考に記載したものであり、記載の分量は例によらず具体的かつわかりやすく詳細に記入すること。

被推薦者・推薦者・2名の賛同者は互いに二親等以内の親族ではないこと。

推薦書提出年月日時点の満年齢を記入すること。なお、推薦者および2名の賛同者は成人に達した者であること。

3. 賛同者①の氏名等

ふりがな	〇〇〇〇 〇〇〇〇	男 女	年 齢	推薦者との関係
氏 名	〇〇 〇〇		満〇〇歳	
現 住 所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇号	TEL〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	被推薦者との関係	
			会社の同僚	

性別欄はあてはまるものを囲むこと。

4. 賛同者①の署名

私は、推薦者が、被推薦者を卓越した技能者の候補者として推薦します。

携帯番号など日中に必ず連絡がつく番号を記載すること。

署名

以下、賛同者②の項目に続く。

(記載例)

(様式6の2)

賛同理由書②

1. 被推薦者及び推薦者

被推薦者		推薦者	
ふりがな 氏 名	ぎ の う し ゅ う い ち 技 能 秀 一	ふりがな 氏 名	△△△△ △△△△ △ △ △ △

2. 賛同者②の賛同理由（具体的に記入すること。）

技能秀一氏は、〇〇における技能に卓越し、大学等と連携し〇〇の品質改良を長年にわたって研究した結果を活かし、〇〇を開発し商品化に実現した。業界全体の効率化を推進するとともに若年技能者の技能の向上を図る研修会に積極的に携わり、技能向上に貢献した。

賛同理由は、参考に記載したものであり、記載の分量は例によらず具体的かつわかりやすく詳細に記入すること。

被推薦者・推薦者・2名の賛同者は互いに二親等以内の親族ではないこと。

推薦書提出年月日時点の満年齢を記入すること。なお、推薦者および2名の賛同者は成人に達した者であること。

3. 賛同者②の氏名等

ふりがな 氏 名	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇 〇〇	男・女	年 齢 満〇〇歳	推薦者との関係 会社の部下
現 住 所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇号		TEL〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	被推薦者との関係 会社の同僚

性別欄はあてはまるものを囲むこと。

4. 賛同者②の署名

私は、推薦者が、被推薦者を卓越した技能者の候補者として推薦することとします。

携帯番号など日中に必ず連絡がつく連絡先を記載すること。

署名

推薦同意書（第 21 部門）

「卓越した技能者の表彰」の候補者は、下記事項を理解の上、同意する場合に、職業部門第 21 部門での推薦が可能となります。

次の事項を確認し、推薦に同意する場合は、本人署名欄に推薦される本人が自筆で署名して下さい。

推薦受付後、候補者の中から審査が行われ被表彰者を決定しますが、厚生労働大臣による表彰式（推薦年の 11 月頃）に先立ち、推薦の際に提出された写真、氏名、年齢、職種、就業先の事業所名、技能功績等が新聞、テレビ等の報道機関に公表され、報じられます。

また、障害の種類、程度等についても公表されます。

【推薦及び表彰に係る事項の同意・署名】

「卓越した技能者の表彰」の推薦にあたり、

被表彰者に選出された場合は、顔写真、氏名、年齢、職種、就業先の事業所名、技能功績、障害の種類・程度等について、プレス発表資料、行政等の広報誌・ウェブサイト、被表彰者名簿等に掲載されること

上記について、理解の上、同意します。

令和 8 年 3 月 2 日

被推薦者 本人署名 技能 優子

（被推薦者本人の署名が困難な場合）

被推薦者との関係

代理人署名